

# ブロック分科会（高学年ブロック）まとめ

## 交流の話題

論理的思考力を高めるために、問題解決型学習を基本とした授業づくりの工夫は、どうあるべきか。

### 《提言内容》

- ◎ 既習事項を活かし見通しをもって学習に取り組めるような問題を設定することで、児童が自信を持って学習に参加する事ができるよう指導過程を工夫した。さらに、日頃から『課題について自分の考えをもつ→小集団での交流→全体で交流する』という展開にしている。この展開は、自分の考えに自信をもつことができ、考えを整理することができる。また、他者の考えを知り、思考を深めることができるので、論理的思考ができる子の育成にもつながると考える。
- ◎ 教師による対話型発問によって授業にリズム・テンポがうみ出され、本時に関わる重要な算数用語も短時間で把握させることができた。また、学習課題及び解決への見通しを明確にすることで、円滑な学習展開が可能となり習熟時間も確保することができた。解決の場面では適宜短時間のペア交流を行った。これは自分の考えを確かにするための交流であり他者の考えを聞くことで納得し理解につながるものと考えられる。
- ◎ 教科書では3つの形を一度で提示しているが、今回は書画カメラを用い、順番に2つずつ提示していった。形を徐々に見せる手法で、子どもたちが隠れている情報をわかりやすくとらえることができた。自力解決の際には、「アイテムコーナー」を全員へ提示した。わからなかったら使用してよいという「ヒントカード」よりも子どもの「考えてみたい」という気持ちを高めるものと考えられる。

### 実践の紹介

#### 4年「面積」

石狩市立八幡小学校 後藤 祐記代教諭

#### 6年「比」

千歳市立千歳小学校 立花 秀俊教諭

#### 4年「面積」

当別町立西当別小学校 豊嶋 真美教諭

### 討議の内容

- ・ 見通しの部分で、子どもにどこまで把握させるのか、教師側が深く考える必要がある。
- ・ 対話型の指導を行うことで、自力解決の内容を絞る、焦点化することができ、テンポよく取り組みを進めることができる。ただし、だまって座っている子がいないか常に確認し、発問をシンプルにしたり、理解が深まっていない様子があればすぐにペア交流を取り入れるなどの工夫をすることが大切である。自力解決のおさえを、「問題に対して黙々と解く」ことなのか、「教師との対話から考え、解決していく」ことなのか、考えていく必要がある。

## 討議の柱2

論理的思考力を高めるために、言語活動の充実をはかる算数的表現の指導はどうあるべきか。

### 《提言内容》

- ◎ 日頃より算数的表現を指導しており、教室掲示にも算数用語を貼り、キーワードや公式を使って説明するという言葉がけをしている。これにより、今回の学習では、長さ・辺・面積といった言葉を使い、相手を意識した丁寧な説明が行われていた。他者の考えを知り、自分の考えを見直す思考の深まりにつながったと考えられる。
- ◎ 算数的表現力の「定着」をはかるため、板書計画、ノート指導に力を入れた。論理的に思考する手順が板書やノートに記録されることで、全ての児童がそれを手掛かりに学習や交流に取り組むことができると考えられる。また、集団検討場面において児童に算数用語を繰り返し発言させたり、活用を促したりすることが「洗練」させるために、効果的であったと考える。
- ◎ 自力解決の際に、教師側で「考えが書けた人は説明できるように準備をしておいてください。」という声かけをすることで、子どもたちは自分の考えを整理し、表現を見直し、論理的思考を自分の中で確認していくことができた。交流場面では、自分の考えと似ている考えが説明されると氏名カードを黒板に貼った。全員の前で考えを説明できなくとも、自分の考えを表明したことになる。同時に、他者の考えと違うのか似ているのか、少し違うのか、自分の考えを見直し、他者の考えや表現を理解できていることが明らかになる。

### 討議の内容

- ・ 他者の考えを知り自分の考えを深めていくために、交流では「いいですか?」「いいです。」で終わらず、子ども同士で解決方法を伝え合い導き出す時間が大切である。また本当に他者の考えを理解したのか繰り返し説明させるなどの工夫も大切である。他者の考えを注意深く聞くためにはじめに自分の立場をはっきりさせるのも効果的である。
- ・ 「洗練された集団検討」とは、子ども同士で意見を交わし合い、よりよいものを求めていくことであると考えられる。子どもにそういう力を育てていく必要があると考える。また、他者の考えと自分の考えを比べ、似ているのか、違うのか考えることも「洗練」と言えるのではないか。
- ・ 多様な考え→収束→一般化となっていく検討が「洗練された集団検討」だろう。そこに向かって教師側で導いていくことが大切である。子供のつぶやき「でも」「だって」というものを教師側で吸い取り、考えを深めていきたい。

